【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公開番号】特開2000-76200(P2000-76200A)
【公開日】平成12年3月14日(2000.3.14)
【出願番号】特願平11-211556
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０６Ｆ　15/16
【ＦＩ】
　Ｇ０６Ｆ　15/16　　６１０Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成16年11月15日(2004.11.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　データ処理方法であって、
　（ａ）ある式を評価するために、複数の演算数を取得するため、並列に要求を出すステップと、
　（ｂ）前記演算数の第一のサブセットを受信した場合に、前記式を評価するために、前記演算数の第二のサブセットを依然として必要とするかどうかを検出するステップ、及び
　（ｃ）前記第二のサブセットをもはや必要としない場合には、前記第二のサブセットに対する要求を取消すステップからなる方法。
【請求項２】
　請求項１に記載のデータ処理方法において、前記演算数が、一つまたはそれ以上の数値例のシーケンスを含んでいる場合に、各数値例が、データ時間、スタート時間および終了時間を含み、前記スタート時間および終了時間が、データ項目が有効な時間の長さを定義するステップを含む方法。
【請求項３】
　請求項２に記載のデータ処理方法であって、
　（ａ）演算数の前記第一のサブセットを受信した場合に、特定の期間に関する演算数の前記第二のサブセットをもはや必要としないことを検出するステップ、及び
　（ｂ）前記特定の期間に対する、演算数の第二のサブセットに対する要求を取消すステップとを含む方法。
【請求項４】
　請求項１乃至３の何れかに記載のデータ処理方法において、一方の演算数が特定の期間に対するエラー表示を含んでいる場合に、前記方法が、その特定の期間に対する他方の演算数に対する要求を継続して行い、前記他方の演算数に対する要求が取消される場合だけ、その特定の期間に対するエラーを送り返す方法。
【請求項５】
　請求項１乃至４の何れかに記載のデータ処理方法であって、
　（ａ）該ある式をデータ・フローチャートへ変換するステップであって、評価結果を表わすルート・ノードと、前記演算数を表わすリーフ・ノードと、演算子を表わす中間ノードとを含むステップ、
　（ｂ）どの演算数が必要なのかを示す要求メッセージを該データ・フローチャートを通

して該リーフ・ノードの方向へ送るステップと、
（ｃ）要求メッセージがリーフ・ノードに到着した場合、演算数を取得し、前記リーフ・ノードが取得した演算数の数値を含むデータ・メッセージを該データ・フローチャートを通して該ルート・ノードの方向へ送るステップ、及び
（ｄ）データ・メッセージが中間ノードに到着した場合、そのノードが、依然として演算数を必要としているかどうかを判断し、前記演算数がもはや必要とされていない場合には、取消メッセージを該データ・フローチャートを通して前記リーフ・ノードの方向に送るステップを含む方法。
【請求項６】
請求項１乃至５の何れかに記載の方法を実行するためのデータ処理装置。
【請求項７】
請求項１乃至５の何れか１つに記載の方法を実行するためのコンピュータ・プログラムを内蔵するデータ・キャリヤ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５５】
図２についてい説明すると、評価機構は、式２２を取り上げ、それをデータのフローチャート２３に変換する変換プログラム２１を含む。データ・フローチャートのルート・ノードは、評価した式を表わす。葉ノード（リーフ・ノード）は、その式に対する演算数の数値を、文字定数、または演算数の数値を取得するためのプロセスとして表わす。